

日本国憲法と恒藤恭

つねとうきょう

恒藤恭(法学者・大阪市立大学初代学長)は、戦前に「世界民」の立場から体系的に平和主義思想を説き、戦後は第9条を持つ日本国憲法の世界史的意義を解き明かして、国民が憲法を主体化できるように力を注いだ。

また恒藤は、安保条約のもとでの改憲は「とりかえしのつかない」重大なあやまちをおかすと鋭く警告した(『世界』1957年6月)。今日、改憲が現実問題となり、あらためて恒藤の警告の問題を含め、恒藤の憲法論を深く検討する必要がある。

シンポジウムでは、歴史学の立場から小林啓治氏が、国際法の立場から桐山孝信氏が、それぞれ恒藤の憲法論の意義を具体的、理論的に解明し、両報告へのコメントの後、会場からの発言も含めて討論をおこなう。

広く関心ある皆様のご参加を期待しています。



講演する恒藤恭と講演レジュメ

★入場無料★
申し込み不要

報告

小林 啓治(京都府立大学文学部教授)
「戦後における「世界民」と日本国憲法論
-人権・民主主義・平和のトリアーダー-

桐山 孝信(大阪市立大学大学院法学研究科教授)
「恒藤恭『憲法問題』の時代:1949-1964」

コメント

広川 禎秀(大阪市立大学恒藤記念室特任教授・名誉教授)
奥野 恒久(龍谷大学政策学部教授)

司会

安竹 貴彦(大阪市立大学大学史資料室長・大学院法学研究科教授)

12月8日(土)

2018年(平成30年)

日時/午後1時~4時45分(開場 12:30)
場所/大阪市立大学
学術情報総合センター1階 文化交流室

問い合わせ先/大阪市立大学<杉本キャンパス>
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138
大学史資料室 tel:(06)6605-3371/fax:(06)6605-3372
学術情報総合センター tel:(06)6605-3211/fax:(06)6605-3218

プ ロ フ ィ ー ル

(登壇順)



小林 啓治(こばやし ひろはる)

京都府立大学文学部教授。文学修士。
1960年生まれ。1989年京都大学文学研究科博士課程単位取得退学。
日本近現代史の研究者。神戸女子薬科大学(現神戸薬科大学)講師、京都府立大学文学部助教授を経て、2005年現職。1920年代の対外観を研究する中で恒藤恭を知り、『近代日本の対外観』(吉川弘文館、2002年)で戦前の恒藤の思想を本格的に分析した。



桐山 孝信(きりやま たかのぶ)

大阪市立大学大学院法学研究科教授。博士(法学)。
国際組織法を研究。神戸市外国語大学助教授、大阪市立大学法学部助教授、1999年より現職。『民主主義の国際法』(有斐閣、2001年)などの著書がある。恒藤の法学研究も行っており、近作に『戦後世界と恒藤恭の社会科学研究』(法学雑誌64巻1・2号、2018年)ほかの著作がある。



広川 禎秀(ひろかわ ただひで)

大阪市立大学恒藤記念室特任教授、大阪市立大学名誉教授。文学博士。
専門は日本近現代史。恒藤恭の思想史的研究をおこない、著書に『恒藤恭の思想史的研究』(大月書店、2004年)、近作に『新憲法成立前後の恒藤恭の歴史認識——1946・47年恒藤日記の解題をかねて——』(『恒藤記念室叢書7』2018年)。大学史資料室編『向陵記—恒藤恭—高時代の日記—』(大阪市立大学、2003年)編集の中心となった。



奥野 恒久(おくの つねひさ)

龍谷大学政策学部教授。龍谷大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学。
専攻は憲法学で、民主主義論と平和の生存権論、アイヌ民族の文化享有権論に関心を持っている。主要著書として、『はじめての憲法』(晃洋書房、2011年・共著)、『アイヌ民族の復権—先住民族と築く新たな社会』(法律文化社、2011年・共編)、『平和憲法と人権・民主主義』(法律文化社、2012年・共著)、『憲法「改正」の論点—憲法原理から問い直す』(法律文化社、2014年・共編)。最近の論文として、『安保関連法の違憲性と問題性』(龍谷政策学論集、2016年3月)、『思想・良心の自由をめぐる今日の問題』/『生存権・福祉政策と民主主義論(1)』(龍谷政策学論集、2018年3月)など。

【展示】 恒藤恭講演レジュメ、恒藤恭肖像画など(12:30 より会場にて)

